

# 奈良教育大学 研究戦略

学長裁定

2025年4月

## 全体像：未来を創造する優れた教師を養成する大学としての研究戦略

奈良教育大学は、未来を創造する優れた教師を養成していくために、第4期中期目標・中期計画において「特色ある研究」として、ESD・理数教育・インクルーシブ教育・乳幼児期における教育を掲げて推進している。

このような「特色ある研究」を着実に推進しつつ、新たな「特色ある研究」を生み出していくために、土壌を作り(研究意欲の喚起・促進)、育て(多様な研究シーズの育成、研究者間の連携促進)、開花させる研究風土を築く。そのために研究者一人ひとりの研究に取り組む意欲を刺激し、主体的な研究活動を活性化させる環境を整備し、多様な研究の芽生えを促すことを重視し、以下に取り組む。

1. 〈研究意欲の喚起・促進〉：研究者にとって多様なインセンティブ(研究時間の確保、研究交流の促進など)を通して、研究活動をサポートする。
2. 〈多様な研究シーズの育成〉：専任教員、特任教員、附属学校教員、大学院生(現職教員を含む)、学部学生などの大学に集うすべての研究者を、ユニークで新しい研究シーズと捉え、その育成を支援する。
3. 〈研究者間の連携促進〉：「小さな総合大学」としてのメリットを生かし、学内および機構内の共同研究的な関係づくりを促進する雰囲気づくり、環境づくり(研究交流スペースの整備や異分野融合ワークショップの開催など)を重視する。

以上を骨子とし、教員養成大学として、学生、教員、そして教育現場にとって有益な研究コミュニティを構築する3つのビジョンを定め、それぞれに目標と戦略の具体を掲げて研究推進を図る。また、専任教員が100名に満たない小規模大学としての利点を生かし、学長及び副学長(研究担当)を中心に大学全体として組織的に取り組み、大学全体の研究力を高め、未来を創造する教師の養成に資することを目指す。さらに、地域社会・産業界と連携し、研究を基盤として地域創生のための新たな教育を創出する。

加えて、大学とそのステークホルダーとの関係を構築・維持していくためのPRとして、教員個々やコミュニティによる研究成果を積極的に発信し、研究面における奈良教育大学のブランドを高めていく。研究成果の発信においては、教育関係者、研究者、企業、自治体、一般市民など、多様なターゲット層に合わせて行い、新たな研究テーマや共同研究の萌芽を期待する。

これらにより、〈研究→教員養成と社会貢献→外部資金獲得→さらなる研究→より質の高い教員養成と社会貢献→さらなる外部資金獲得→…〉の好循環を果たし、安定した財政基盤に支えられた高等教育・研究機関の樹立を目指す。

ビジョン1	学生の探究心を育む研究コミュニティの構築（教員養成大学としての役割）
目的・目標	<p>1-1 学生に対し、研究活動を通じて、<u>教育者としての探究心、問題解決能力、そして教育への情熱を育む。</u></p> <p>1-2 児童生徒の問題解決能力・課題解決能力の育成を求められている教師として、<u>自らが研究の面白さを体感し、生涯にわたる自身の学習基盤を形成するための研究姿勢の醸成と研究方法の習得を推進する。</u></p>
具体的戦略	<p>1-(1) <u>教育課程内外において、当該分野に係る最先端の研究知見を大学教員等から提供し、学生とともに議論する機会を設けることで、教員・学生の研究意欲を刺激する。</u>〈研究意欲の喚起と促進〉</p> <p>1-(2) 学生の学際的な探究心や思考力を育成するため、<u>教員・学生ともに講座・専攻・専修を超え、奈良女子大学の教員や学生も交えた研究交流や対話の場を定期的に設ける。</u>〈多様な研究シーズの育成〉</p> <p>1-(3) <u>学生の研究活動や成果を積極的に発信し、奈良女子大学や他大学の教員・学生との交流機会を設け、学生の研究コミュニティへの参加を促進する。</u>〈研究者間の連携促進〉</p>
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジョン2の研究交流会を学生にも公開。</li> <li>・ 学生が主体的に行う地域社会や教育現場の課題をテーマとした萌芽的な研究の支援（可能であれば財政的支援も）。</li> <li>・ 学生の研究活動や成果を発信する Web ページの構築。</li> <li>・ その他</li> </ul>

ビジョン2	学際的視点を涵養し合う研究コミュニティの構築（「小さな総合大学」としての役割）
目的・目標	2-1 1つの学部に多様かつ幅広い専門分野の教員が所属していることによる交流・連携のしやすさを生かし、 <u>それぞれが持つ研究知見を融合させることで、複雑な教育的課題・社会的課題等を解決する。</u>
具体的戦略	<p>2-(1) 学内全教員の研究テーマや内容、特色ある研究をデータベース化し、全学で共有する。研究シーズ集の作成・公開、研究者紹介などを通して、異分野の研究者との連携を促進する。〈研究シーズの育成、研究者間の連携促進〉</p> <p>2-(2) <u>重点的に取り組むべき教育課題（重点テーマ）を明確化し、その解決を目指す研究を推進する。</u>重点テーマに関するセミナーやワークショップを開催し、研究者の問題意識を高める。〈研究意欲の喚起と促進〉</p> <p>2-(3) 異分野融合型研究、「教育×〇〇」・「ESD×〇〇」・「奈良×〇〇」などの本学の特色を生かした学際的な共同研究や奈良女子大学及び奈良カレッジズ参画機関との共同研究を推進する。研究グループの立ち上げ支援、共同研究スペースの提供などを行う。〈多様な研究シーズの育成、研究者間の連携促進〉</p> <p>2-(4) <u>学内教員の研究成果を外部に発信するために、研究者データベース、研究シーズ集、研究プロジェクト紹介、イベント情報などを集約し、ターゲット層（教育関係者、研究者、企業、自治体、一般市民）に合わせた情報発信を行う。</u></p> <p>2-(5) 教員の研究時間を確保するための業務効率化や、外部資金獲得のための支援を強化する。</p>
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な研究交流会に加え、異分野マッチングを目的とするワークショップの開催。</li> <li>・ 研究成果の積極的な PR。研究成果を分かりやすく解説するウェブコンテンツ（インフォグラフィック、動画など）を作成し、SNS 等で積極的に発信。</li> <li>・ 研究成果を教育現場や地域社会に還元するためのアウトリーチ活動（公開講座、ワークショップなど）の企画・実施。</li> <li>・ 科研費獲得のためのさらなる支援強化（継続的な獲得への支援及び獲得実績の少ない教員への支援、上記交流会や研究グループからのチームでの科研費獲得の促進、等）</li> <li>・ 研究時間確保のための業務効率化支援（事務手続きの簡素化、情報共有の効率化など）</li> <li>・ その他</li> </ul>

ビジョン3	教育現場の課題解決に貢献する研究コミュニティの構築(教育大学としての役割)
目的・目標	<p>3-1 <u>奈良県教育委員会をはじめとする教育委員会との連携協定などを生かし、学校・地域・保護者のニーズを踏まえた実践的な研究を行い、その成果を教育現場に還元することで、奈良県や我が国が抱える教育課題の解決に貢献する。</u></p> <p>3-2 <u>教科内容に係る学術的・先進的研究知見について、子どもが関心や探究心をもてるようにするための教育研究を推進する。</u></p>
具体的戦略	<p>3-(1) <u>教育現場との研究協働体制(個人レベル・組織レベル)の現状を全学に対して可視化する。共同研究データベースを構築し、連携状況を把握・共有する。〈研究者間の連携促進〉</u></p> <p>3-(2) <u>定期的な意見交換会や共同研究会を通して得られた教育現場の課題や研究成果を大学や附属学校園で共有し、大学と学校が一体となった研究を推進する。〈研究意欲の喚起と促進〉</u></p> <p>3-(3) <u>附属学校園教員(奈良女子大附属学校園も含む)と大学教員の共同研究を推進する。共同研究のテーマ設定、研究計画の立案、成果発表などを支援する。〈多様な研究シーズの育成、研究者間の連携促進〉</u></p> <p>3-(4) <u>教育関係企業との連携や社会人を対象とするリカレント教育に関わる研究・教育プログラム開発・教材開発・情報基盤確立等を推進する。</u></p> <p>3-(5) 教育現場との連携研究に対するインセンティブを付与する。</p>
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育現場に対する理解を深めることを目的としたFDとしての全学交流会・研修会の実施。</li> <li>・ 教育現場との共同研究データベースの構築。共同研究のテーマ、参加教員・学校、成果などの連携状況の把握と共有。</li> <li>・ 重点テーマの選定。現代的な教育課題、奈良県の教育課題解決に資する研究、地域資源を活用した教育コンテンツ開発などを想定し、産学連携・外部資金獲得の可能性、地域貢献性、学際融合性などを評価基準とした審査による財政的支援。また、研究成果を附属学校園内、奈良県内や全国に発信するためのシンポジウムやワークショップを開催支援。</li> <li>・ 教育現場との研究ニーズマッチングイベントの開催</li> <li>・ その他</li> </ul>